

# Express5800/CacheServer (N シリーズ) Express5800/CS オフラインアップデート手順書

2011 年 4 月 第 16 版

1. 概要 .....	2
2. アップデートを行うにあたっての注意事項 .....	2
3. 事前準備 .....	3
4. アップデート方法 .....	4
手順A .....	5
手順B .....	10
手順C .....	13
手順D .....	15
5. アップデート適用済み環境で再セットアップとリストアを実施する際の注意事項 .....	18
6. アップデートによる追加機能について .....	20

## 1. 概要

本手順書は、Express5800/CacheServer (N シリーズ) (N8100-803/N8100-804/N8100-806)、Express5800/CS (N8100-802/N8100-906/N8100-805/N8100-805A/N8100-1011/N8100-1012/N8100-1096/N8100-1141/N8100-1345/N8100-1346/N8100-1462/N8100-1463/N8100-1561/N8100-1562/N8100-1641/N8100-1703) (以下、CS と略す)においてアップデートを行うための手順書です。

2011 年 4 月の時点で、N8100-803/N8100-804/N8100-806/N8100-802/N8100-906/N8100-805/N8100-805A/N8100-1011/N8100-1012 に関しては、ソフトウェアサポートサービスが終了しています。これらの機種のアップデートモジュール及び本手順書内の適用手順は、参考情報として公開しているものです。

## 2. アップデートを行うにあたっての注意事項

- ・ 必ずこの手順書に沿って作業を行ってください。  
この手順以外でのアップデートは誤動作の原因となる場合があります。
- ・ CS にプロキシを介さずに接続できるマシンを用意してください。
- ・ Management Console を起動する場合には、ブラウザとして Microsoft Internet Explorer6、7、8 (日本語版) を推奨します。

### 3. 事前準備

以下のアップデートモジュールのファイルサイズが正しいことを確認します。

機種毎に適用するモジュールが異なりますのでご注意ください。  
他機種用モジュールを適用しますと、CS が正常に動作しません。

- N8100-803/N8100-804/N8100-806 用  
offlineupdates-1.0-8.i386.rpm 5,958,013 bytes
- N8100-802/N8100-906/N8100-805/N8100-805A 用  
offlineupdates-2.0-8.i386.rpm 12,487,287 bytes
- N8100-1011/N8100-1012 用  
offlineupdates-3.0-8.i386.rpm 18,437,136 bytes
- N8100-1096/N8100-1141 用  
offlineupdates-4.0-8.i386.rpm 1,702,690 bytes
- N8100-1345/N8100-1346 用  
offlineupdates-5.0-10.i386.rpm 1,840,975 bytes
- N8100-1462/N8100-1463 用  
offlineupdates-6.0-5.i386.rpm 1,928,486 bytes
- N8100-1561/N8100-1562 用  
offlineupdates-7.0-4.i386.rpm 2,230,377 bytes
- N8100-1641 用  
offlineupdates-8.0-2.i386.rpm 2,231,184 bytes
- N8100-1703 用  
offlineupdates-9.0-1.i386.rpm 2,193,612 bytes

## 4. アップデート方法

モジュールのアップデート方法は2つの方法があります。

- (1) CD-R、CD-RW などの CD 媒体（DVD ドライブ搭載モデルは DVD 媒体も可能）にアップデートモジュールを格納し、アップデートを行う
- (2) ローカルの web サーバにアップデートモジュールを置き、アップデートを行う

**手順A**を行った後、(1)の方法でアップデートする場合には**手順B**へ、(2)の方法でアップデートする場合には**手順C**へ進んでください。

最後に、アップデートが正常に行われたか確認するため**手順D**の作業を行ってください。  
なお、手順書内のキャプチャ画像は操作例を示すためバージョン番号などの表示内容が実際と異なる場合がありますが、項目3. に記載されているバージョンと読み替えてください。

また、(2)の方法でアップデートを行う際、ご使用の Web サーバの種類によっては、アップデートモジュールを正しく転送できない場合があります。モジュールの転送に失敗する場合は、(1)の方法でアップデートを行ってください。

## 手順 A

事前準備と Management Console の接続までを行います。

### A-1 事前準備

CD 媒体を使用したアップデートを行う場合、アップデートモジュールを CD 媒体へ格納します。

Web サーバを使用したアップデートを行う場合、アップデートモジュールを Web サーバへ格納します。

#### [重要 1] CS300e (N8100-1345)、CS500e (N8100-1346) のアップデート適用について

※Management Console のログイン後のトップ画面下部にある機種名・型番を必ずご確認の上、本操作を行って下さい。

以下の両方の条件に適合する場合に限り、事前準備として特別な操作を行い CS の動作を停止させる必要があります。

行わなかった場合、CSが正常に動作しない可能性がございますので、ご注意ください。

- ・ハードディスクが論理的に 2 台以上に見える構成の場合

ハードディスクを非 RAID 構成で 2 台以上搭載している場合や、RAID で論理ドライブを複数作成している場合が該当します。

- ・wbmccache パッケージのバージョンが wbmccache-3.1-55 未満の場合

必要な操作は以下のとおりです。

---

CS のコンソールから直接、あるいは telnet 経由でログインします。

login: mainte

Password: ←お客様が設定済みの保守用パスワードをご入力ください。

[mainte@host]\$ su -

Password: ←お客様が設定済みの管理者パスワードをご入力ください。

[root@host root]# /sbin/service roma stop

→プロキシ動作が停止します。

[root@host root]# /sbin/rmmod kc

[root@host root]# /sbin/lsmmod | grep kc

→何も出力されなければ問題ありませんが、

「kc \*\*\*\*\* \*」(\*は任意の数字)が出力された場合は

もう一度/sbin/rmmod kc を実行し、出力されなくなるまで繰り返します。

後述の手順に従い、アップデートを適用します。

---

[重要 2] CS300e (N8100-1345) / CS500e (N8100-1346) / CS500b (N8100-1096) /  
CS200c (N8100-1141) / CS500a (N8100-1011) / CS200b (N8100-1012) の  
アップデート適用について

※Management Console のログイン後のトップ画面下部にある機種名・型番を  
必ずご確認の上、本操作を行って下さい。

製品担当部門より、個別に「CS 使用メモリの固定化措置」について、案内  
を受け、実施されているお客様に関しては、アップデート適用完了後に、  
再度メモリ固定化措置を実施する必要があります。

行わなかった場合、メモリ固定化がされなくなりますので、ご注意ください。  
詳細は、製品担当部門 (PP サポートサービス) にお問合せください。

※本件は、製品担当部門より、個別に「CS 使用メモリの固定化措置」をご案  
内しているお客様が対象となります。  
標準の状態でご利用の環境に関しては、該当いたしません。

## A-2 Management Console の起動とログイン

ブラウザより Management Console へアクセスしてください。

- CacheServer (N シリーズ)  
セキュリティレベル 1 (標準) :  
<http://CSサーバのIPアドレス:50080/>  
セキュリティレベル 2 :  
<https://CSサーバのIPアドレス:50443/>
- CS  
セキュリティレベル 1 :  
<http://CSサーバのIPアドレス:50090/>  
セキュリティレベル 2 (標準) :  
<https://CSサーバのIPアドレス:50453/>

Management Console のログイン画面(図 1)が表示されたら、[システム管理者ログイン]をクリックし、正しくログインしてください。

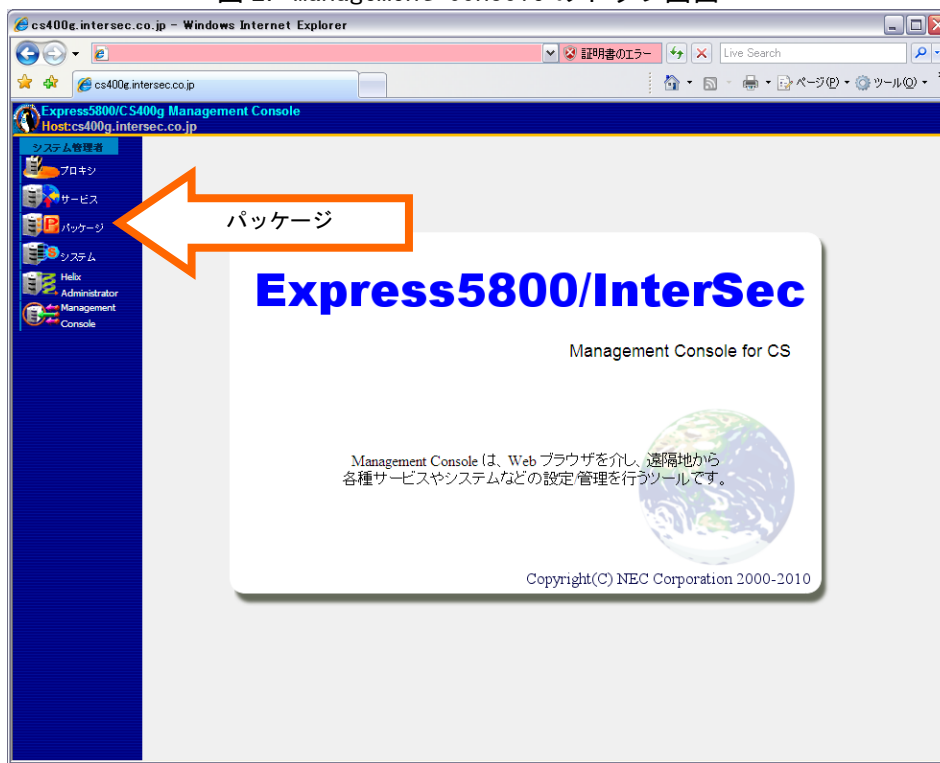
図 1. ログイン画面



## A-3 トップ画面

ログインが正しく行われますと、トップ画面(図2)が表示されます。  
画面左のメニューより「パッケージ」をクリックしてください。

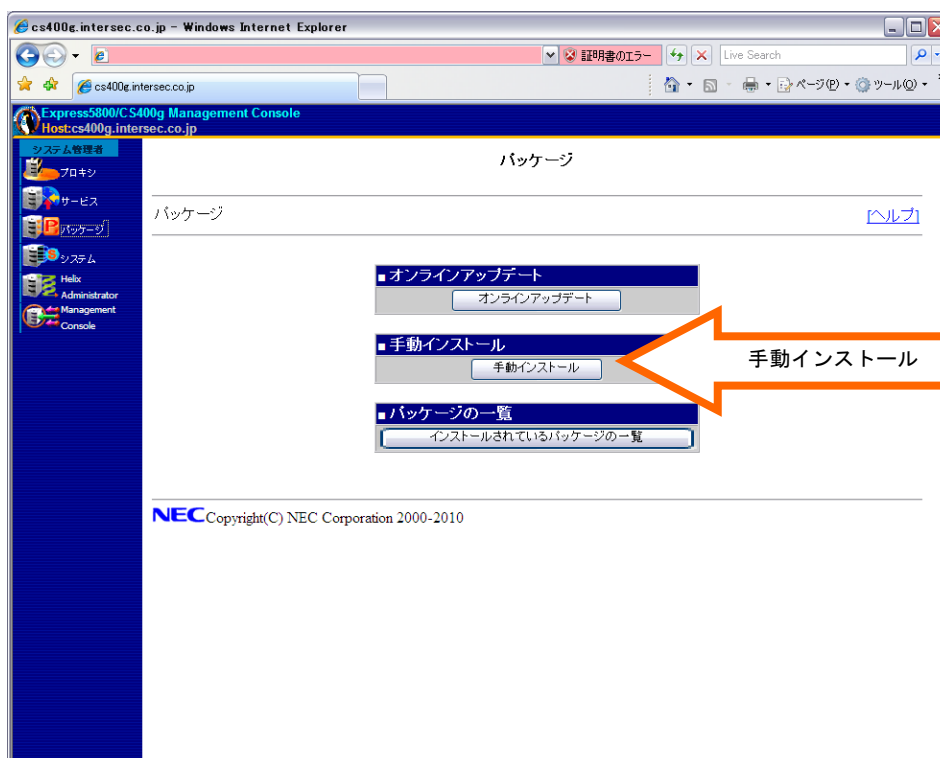
図2. Management Console のトップ画面



## A-4 パッケージ画面

パッケージ画面(図3)が表示されましたら、[■手動インストール]の[手動インストール]をクリックしてください。

図3. パッケージ画面

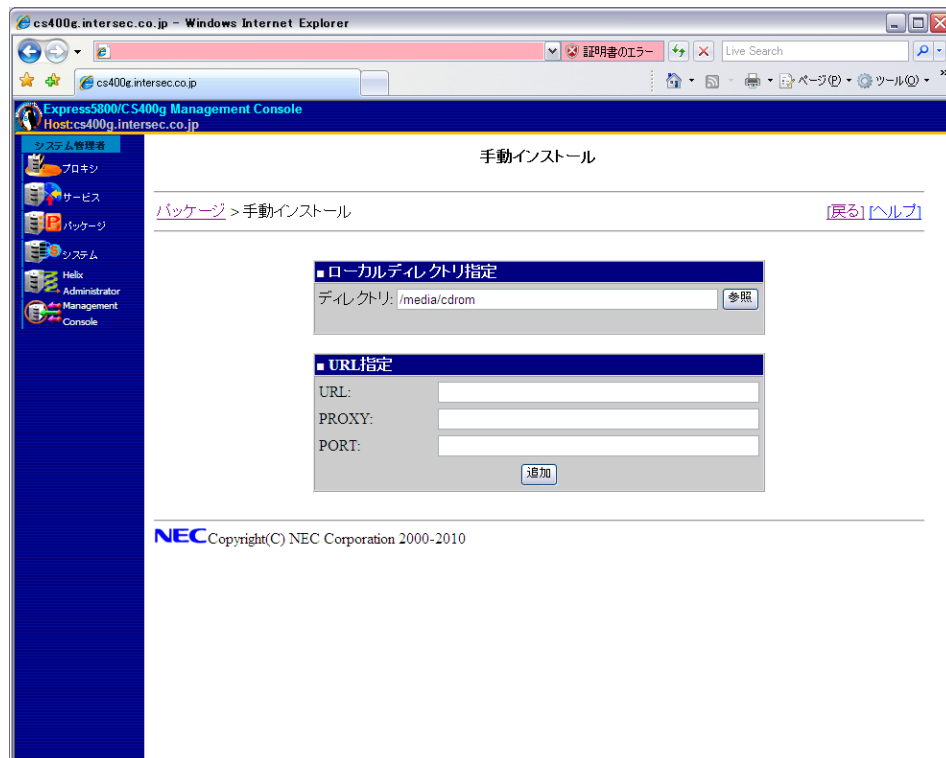




## A-5 手動インストール画面

手動インストール画面(図4)が表示されます。

図4. 手動インストール画面



## 手順 B

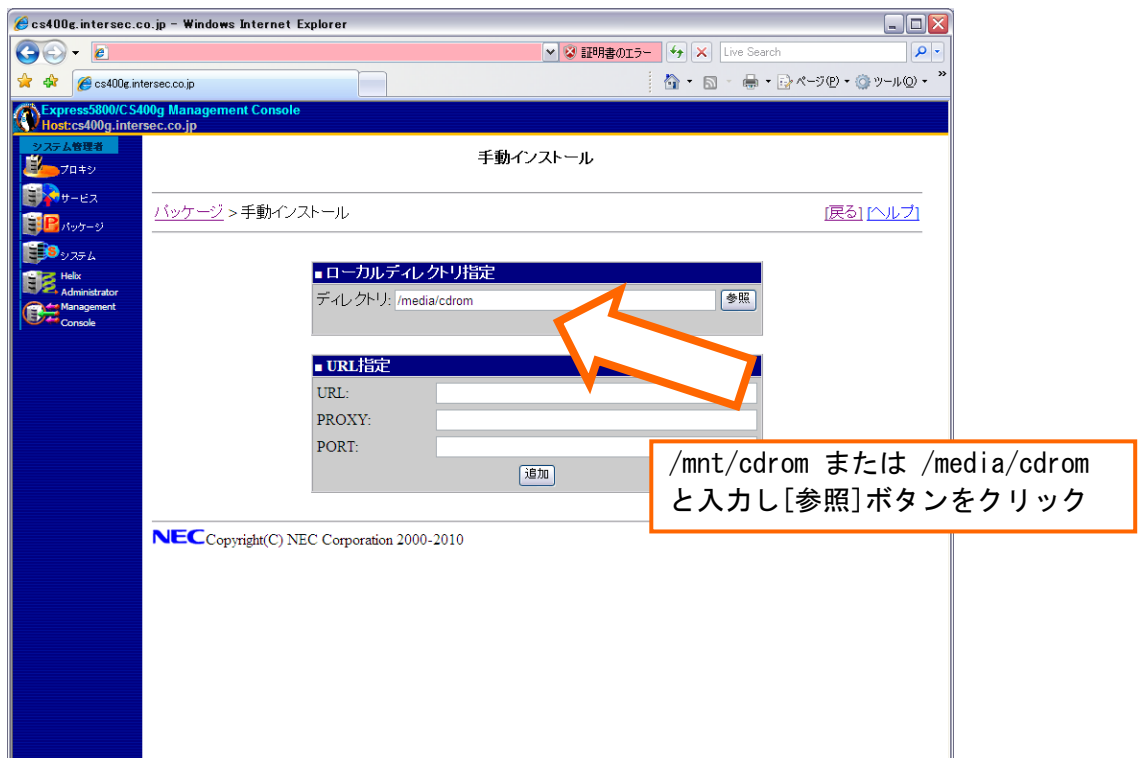
CD 媒体を用いたモジュールのアップデートを行います。

### B-1 手動インストール画面

手順 A が終了したら、CS の CD-ROM ドライブに「A-1. 事前準備」で作成した CD 媒体を入れてください。

その後、[■ ローカルディレクトリ指定] の [ディレクトリ] に” /mnt/cdrom”  
(N8100-1462/N8100-1463 以降の機種では” /media/cdrom” ) を指定し [参照] をクリックしてください(図 5)。

図 5. 手動インストール画面



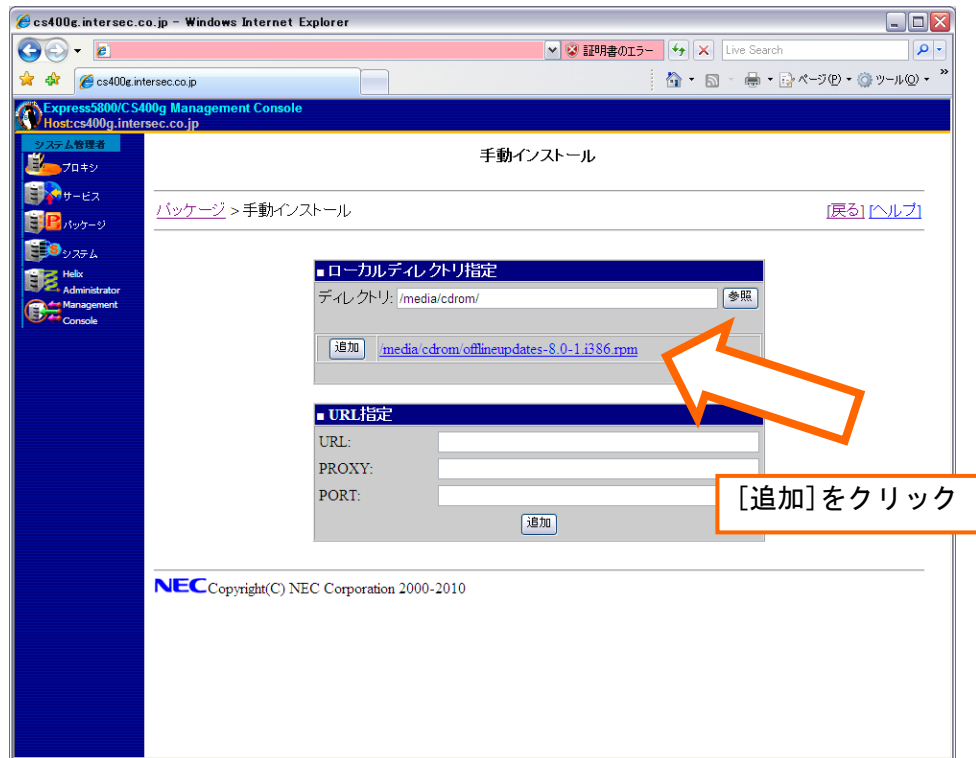
## B-2 手動インストール

CD 媒体内のアップデートモジュールが表示されます。(図 6)

アップデートモジュールの文字列の左横にある[追加]をクリックしてください。

なお、” /media/cdrom/offlineupdates-8.0-1.i386.rpm” 等の文字列をクリックするとアップデートモジュールの詳細な情報を参照することができます。

図 6. パッケージ一覧



## B-3 確認ダイアログ

[追加]クリック後、確認のダイアログ(図 7)が表示されます。[OK]を押してください。

図 7. 確認ダイアログ



### <注意>

クリック後は操作結果通知画面が表示されるまで数十秒かかることがありますので、しばらくお待ちください。結果が表示される前にクリック等の操作を行った場合、正常にインストールされない可能性がありますのでご注意ください。

## B-4 操作結果通知画面

図9の操作結果通知画面が表示されたらアップデートモジュールのインストールは正常に完了したことになります。操作結果通知画面でエラーが表示された場合にはB-1からもう一度やり直してください。

**<注意>**

モジュールをインストールしたとき、“warning:/opt/nec/roma/etc/roma.conf created as ~”というメッセージが出力されることがあります。これは、既に存在していたユーザ設定済みの設定ファイルを置き換えずに他のファイル名で保存しました、という意味のメッセージで、エラーではありません（動作に支障はありません）。

また、操作結果通知画面が表示されずにタイムアウトが起こった場合には[システム]→[システムの再起動]をクリックしてCSの再起動を行った後、もう一度A-1からやり直してください。

図9. 操作結果通知画面例



以上で手順Bは終了です。

アップデートを完了させるため、手順Dを実行しシステム再起動と適用状態の確認を行ってください。

## 手順 C

web サーバを用いたモジュールのアップデートを行います。

### C-1 手動インストール画面

手順 A が終了したら、[■URL 指定]の[URL]にアップデートモジュールの URL を指定します (図 10)。

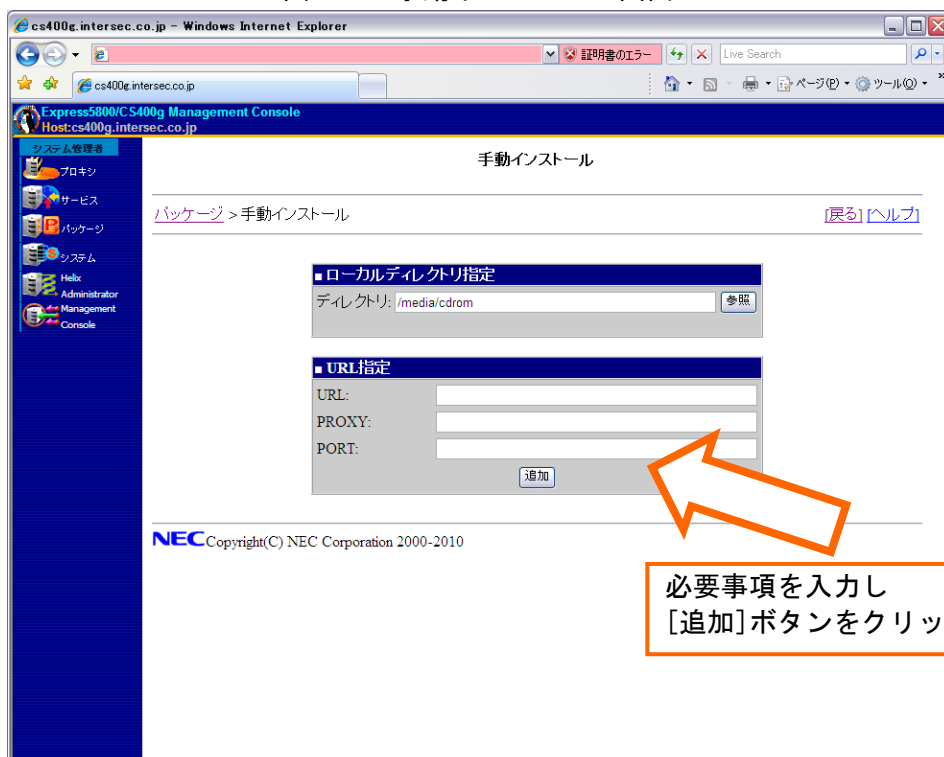
CS では、プロキシ指定が可能となっています。アップデートモジュールを格納したサーバへプロキシ経由でアクセスする必要がある場合は、以下の操作を行います。

[■URL 指定]の[PROXY]に「プロキシ」の基本設定画面に設定されている” キャッシュサーバ IP アドレス” の IP アドレスを指定します。

[■URL 指定]の[PORT]に「プロキシ」の基本設定画面に設定されている” キャッシュサーバポート番号” のポート番号を指定します。

必要事項を入力し、[追加]ボタンをクリックします。

図 10. 手動インストール画面



## C-2 確認ダイアログ

[追加]クリック後、確認のダイアログ(図 1 1)が表示されます。[OK]を押してください。

図 1 1. 確認ダイアログ



### <注意>

クリック後は操作結果通知画面が表示されるまで数十秒かかることがありますので、しばらくお待ちください。結果が表示される前にクリック等の操作を行った場合、正常にインストールされない可能性がありますのでご注意ください。

## C-3 操作結果通知画面

図 1 2 の操作結果通知画面が表示されたらアップデートモジュールのインストールは正常に完了したことになります。操作結果通知画面でエラーが表示された場合にはB-1 からもう一度やり直してください。

また、操作結果通知画面が表示されずにタイムアウトが起こった場合には[システム]→[システムの再起動]をクリックして CS の再起動を行った後、もう一度A-1 からやり直してください。

図 1 2. 操作結果通知画面例



以上で手順Cは終了です。

アップデートを完了させるため、手順Dを実行しシステム再起動と適用状態の確認を行ってください。

## 手順 D

システム再起動を行ってアップデートを完了させます。

再起動完了後、適用状態の確認を行います。

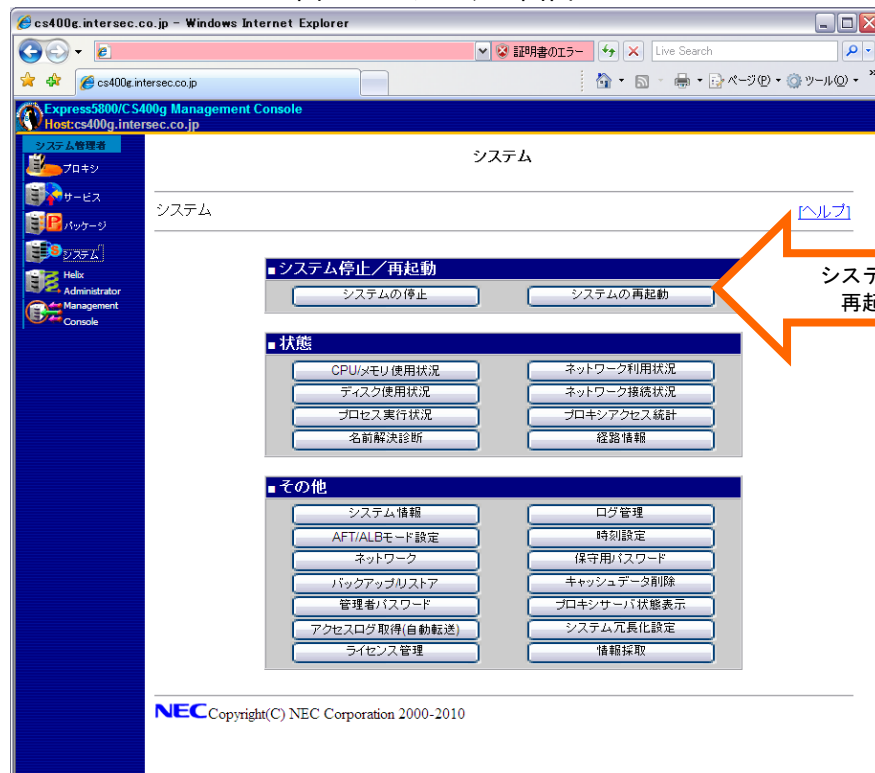
なお、システム再起動が不要なことを示すメッセージが表示された場合は、再起動は不要です。

### D-1 キャッシュサーバの再起動

画面左のメニューから、[システム]をクリックしてください。

システム画面(図 1 3)が表示されます。

図 1 3. システム画面



[システムの再起動]をクリックしますと、システムの再起動を行います。

再起動には数分かかります。

補足：

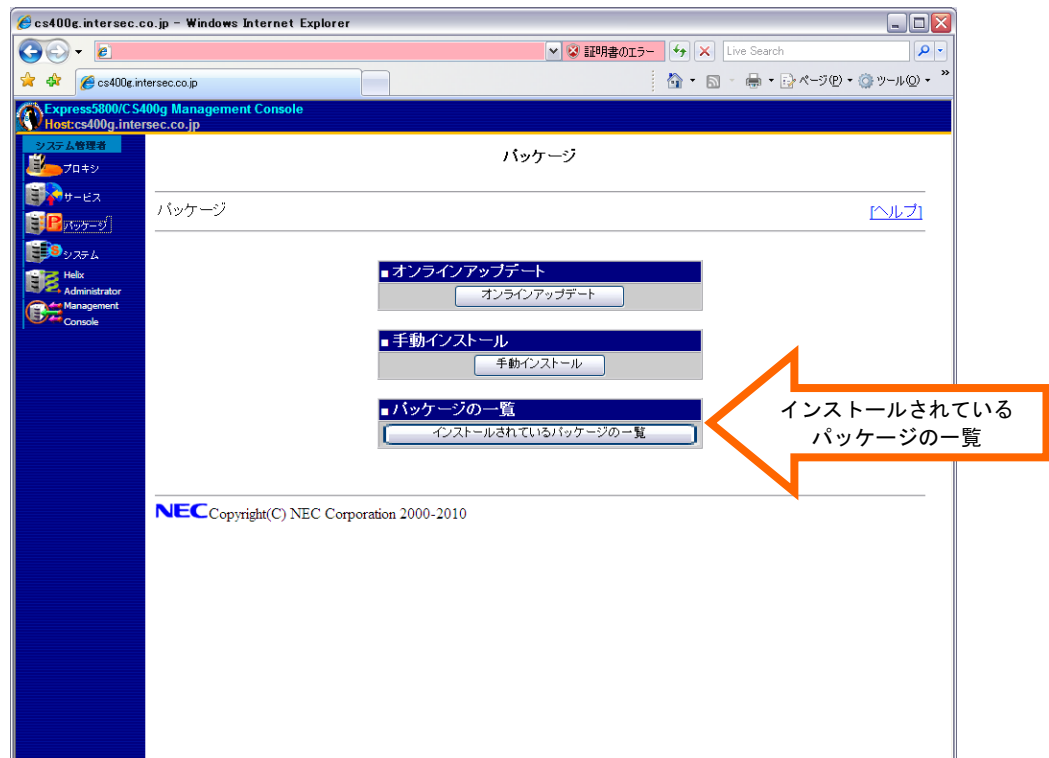
アップデートモジュールを実際に適用するのは、システム再起動時となりますので、システム再起動を行うまでは適用前のモジュールで通常通り動作します。

アップデートモジュールの適用だけを先に実施し、システム再起動はアクセスが少ない時間帯(深夜)等に行うことも可能です。

## D-2 パッケージの確認

アップデートモジュールが正常にインストールされたか確認します。パッケージ画面(図14)を表示し、[■パッケージ一覧]の[インストールされているパッケージの一覧]をクリックします。

図14. パッケージ画面





## D-3 パッケージ一覧

パッケージ一覧画面(図 15)が表示された後、パッケージ一覧の中から項目 3. のアップデートモジュールが存在することを確認してください。

存在していない場合、手順 A からもう一度アップデート作業を行ってください。

<注意>

バージョン番号に注意して確認してください。

パッケージ一覧には「.i386.rpm」という文字は表示されませんのでご注意ください。

図 15. パッケージ一覧画面

グループ	パッケージ名	概要
System Environment/ Base	nash-5.1.19.6-54	nash shell
Documentation	specspo-13-1.el5	Fedora package descriptions, summaries, and groups.
Development/ System	gmu-efi-3.0c-1.1	Development Libraries and headers for EFI
System Environment/ Base	chkconfig-1.3.30.1-2	A system tool for maintaining the /etc/rc*.d hierarchy.
Development/ Libraries	popt-1.10.2.3-18.el5	A C library for parsing command line parameters.
System Environment/ Libraries	libtermcap-2.0.8-46.1	A basic system library for accessing the termcap database.
System Environment/ Libraries	libsepol-1.15.2-2.el5	SELinux binary policy manipulation library
Applications/ Text	sed-4.1.5-5.fc6	A GNU stream text editor.
System Environment/ Libraries	db4-4.3.29-10.el5	The Berkeley DB database library (version 4) for C.
Development/ Languages	perl-5.8.8-27.el5	The Perl programming language
System Environment/ Libraries	atk-1.12.2-1.fc6	Interfaces for accessibility support
System Environment/ Libraries	libjpeg-6b-37	A library for manipulating JPEG image format files.
System Environment/ Libraries	libSM-1.0.1-3.1	X Org X11 libSM runtime library
Applications/ File	bzip2-1.0.3-4.el5_2	A file compression utility.

## 5. アップデート適用済み環境で再セットアップとリストアを実施する際の注意事項

### 注意：

アップデートモジュールが適用済みの環境で再セットアップとリストアを行う際は、**モジュールのバージョンと設定ファイルのバージョンを合わせる必要があります。**  
下記の手順により再セットアップとリストアを実施してください。

### <事前準備>

再セットアップ後にリストアを行う場合は、事前に Management Console の「システム」→「バックアップ/リストア (図 10)」にて、バックアップを実施します。  
※詳細は、同画面右上の[ヘルプ]をご確認ください。

図 10. バックアップ/リストア画面



### (1) システムの再セットアップ

システムの再セットアップに関する手順等は、バックアップ DVD に付属の「ユーザズガイド (ソフトウェア編)」の【システムのセットアップ→再セットアップ】をご確認ください。

### (2) リストア

- ・ リストアを行う場合は、Management Console の「システム」→「バックアップ/リストア (図 10)」にて、リストアを実施します。  
※詳細は、同画面右上の[ヘルプ]をご確認ください。
- ・ リストアを行わない場合は、手順 (3) へ進んでください。

### 注意：

**リストアを行う場合は、必ずアップデート適用前に実施してください。**  
また、(3) のアップデートを適用するまでは、絶対に設定変更やシステム再起動を行わないでください。

### (3) アップデート適用

バックアップを行った際に使用していたモジュール、もしくは、使用していたモジュールよりも新しいモジュールを適用します。

**注意：**

基本的には、作業時に公開されているアップデートモジュールを適用することで整合が取れますが、個別提供等で公開モジュールより新しいモジュールを使用されている場合は、必ずそのモジュールを適用してください。

### (4) キャッシュサーバの再起動

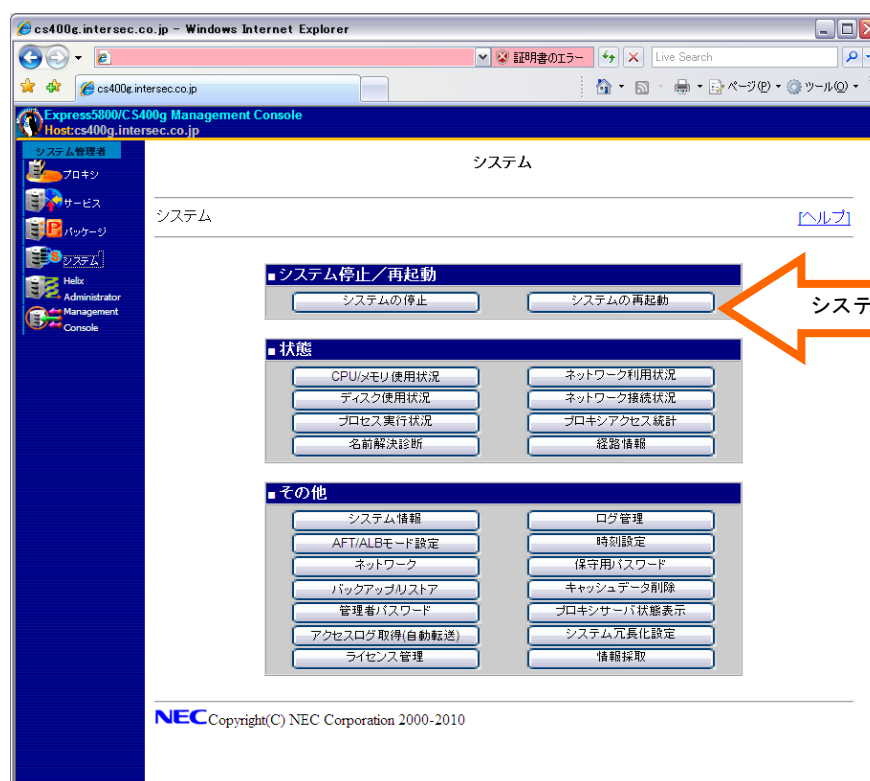
画面左のメニューから、[システム]をクリックしてください。

[システム]画面(図11)が表示されます。

**注意：**

システム再起動を行うまで、モジュールと設定ファイルの整合が取れないため、アップデート適用後は、すぐにシステム再起動を行ってください。

図 1 1. システム画面



[システムの再起動]をクリックしますと、システムの再起動が行われます。  
再起動には数分かかります。

## 6. アップデートによる追加機能について

**N8100-1462/N8100-1463** 用アップデートモジュールにおける、以下の追加機能については、それぞれ Management Console 該当画面の「ヘルプ」をご覧ください、必要に応じて設定を行ってください。

※設定をされなかった場合は、従来と同じ動作を行ないます。

※本バージョン以前に個別提供で追加した機能強化等 (RPQ 対応を含む) も全て含まれています。

### [offlineupdates-6.0-4 で追加された機能]

- ・上位サーバ側へ有効性確認を行う必要がある状態でキャッシュを保持する時間を「キャッシュ有効時間」とは別に設定変更可能にしました。  
これにより、キャッシュ管理に関して、従来より詳細な設定が可能になります。  
ーシステム > 詳細設定 画面
- ・CSR の鍵長を 1024bit、2048bit から選択可能にしました。  
ープロキシ > SSL アクセラレータ設定 (リバースプロキシ用) >  
認証局署名要求作成 画面、自己署名証明書作成 画面

### [offlineupdates-6.0-3 で追加された機能]

- ・リクエストヘッダサイズの上限を、変更可能 (最大 999KB) にしました。  
ーシステム > 詳細設定 > HTTP ヘッダ 1 行の上限値  
※従来 4KB 固定でしたが既定値を 8KB にしています。
- ・本装置のプロキシサービス用の静的名前解決 (hosts ファイル相当) 機能を追加しました。  
ーシステム > ネットワーク 画面
- ・リバースプロキシでサーバの持続性を有効にした場合に、ネットワーク環境に応じた均一な振り分けができるように、振り分けキー用のバイトオーダを選択可能にしました。
- ・リバースプロキシの DNS 設定でフォルダ名まで指定している場合に、当該 URL から指定したフォルダ名を削除する/しないを選択可能にしました。  
ープロキシ > 基本設定 (リバースプロキシ) 画面
- ・SSL アクセラレータ機能において最大同時接続数の指定に対応しました。  
ープロキシ > SSL アクセラレータ設定 (リバースプロキシ用) 画面
- ・障害時の原因調査に利用する、actlog サービスの操作画面を追加しました。  
ーシステム > サービス 画面
- ・オンラインアップデートの認証方式において、NEC サポートポータルログイン機能に対応しました。  
ーパッケージ 画面

**[offlineupdates-6.0-2 で追加された機能]**

- ・“Proxy-Support: Session-Based-Authentication”ヘッダをサポートし、CS 経由での NTLM 認証に対応しました。  
ープロキシ > 詳細設定 画面
- ・ICAP サーバ (InterSafe など) から応答がない場合、Web 閲覧処理の継続を優先 (ICAP サーバのスキップ) する機能、および状況のメール通知を行える機能を追加しました。
- ・NTLM 機能使用時に、NTLM 未対応ツールからのリクエストに対して、ダミーのユーザ名を付加し上位側サーバで認証可能とする機能を追加しました。  
ープロキシ > ICAP サーバ設定 画面
- ・アクセスログの出力形式として、Apache の「CLF (Common Log Format)」に対応しました。  
ーシステム > ログ管理 > キャッシュサーバアクセスログ設定 画面
- ・アクセスログ取得で、送信失敗時にリトライ機能とメール通知を追加しました。  
ーシステム > アクセスログ取得 画面

**N8100-1561/N8100-1562** 用アップデートモジュールにおける、以下の追加機能については、それぞれ Management Console 該当画面の「ヘルプ」をご覧ください。

※設定をされなかった場合は、特に説明がなければ従来と同じ動作を行いません。

※本バージョン以前に個別提供で追加した機能強化等 (RPQ 対応を含む) も全て含まれています。

**[offlineupdates-7.0-2 で追加された機能]**

- ・上位サーバ側へ有効性確認を行う必要がある状態でキャッシュを保持する時間を「キャッシュ有効時間」とは別に設定変更可能にしました。  
これにより、キャッシュ管理に関して、従来より詳細な設定が可能になります。  
ーシステム > 詳細設定 画面
- ・CSR の鍵長を 1024bit、2048bit から選択可能にしました。  
ープロキシ > SSL アクセラレータ設定 (リバースプロキシ用) > 認証局署名要求作成 画面、自己署名証明書作成 画面

**[offlineupdates-7.0-1 で追加された機能]**

- ・リクエストヘッダサイズの上限を、変更可能 (最大 999KB) にしました。  
ーシステム > 詳細設定 > HTTP ヘッダ 1 行の上限値  
※従来 4KB 固定でしたが既定値を 8KB にしています。
- ・本装置のプロキシサービス用の静的名前解決 (hosts ファイル相当) 機能を追加しました。  
ーシステム > ネットワーク 画面
- ・リバースプロキシでサーバの持続性を有効にした場合に、ネットワーク環境に応じた均一な振り分けができるように、振り分けキー用のバイトオーダを選択可能にしました。

- ・リバースプロキシの DNS 設定でフォルダ名まで指定している場合に、当該 URL から指定したフォルダ名を削除する/しないを選択可能にしました。  
ープロキシ > 基本設定(リバースプロキシ) 画面
- ・SSL アクセラレータ機能において最大同時接続数の指定に対応しました。  
ープロキシ > SSL アクセラレータ設定(リバースプロキシ用) 画面
- ・障害時の原因調査に利用する、actlog サービスの操作画面を追加しました。  
ーシステム > サービス 画面
- ・オンラインアップデートの認証方式において、NEC サポートポータルログイン機能に対応しました。  
ーパッケージ 画面

---

**N8100-1641** 用アップデートモジュール (offlineupdates-8.0-1.i386.rpm) における、以下の追加機能については、それぞれ Management Console 該当画面の「ヘルプ」をご覧ください。

※設定を行わなかった場合は、特に説明がなければ従来と同じ動作を行いません。

※本バージョン以前に個別提供で追加した機能強化等 (RPQ 対応を含む) も全て含まれていません。

#### [offlineupdates-8.0-1 で追加された機能]

- ・CS自身が返すエラーメッセージに、発生日時等の情報を表示する機能を追加しました。  
ープロキシ > 詳細設定 画面  
※Forwardで運用している場合はデフォルトで付加する設定になります。
- ・「有効性確認が必要な状態でキャッシュを保持する時間」設定を追加しました。  
これにより、上位サーバに有効性確認を行う時間が適正化され  
より 効率的にコンテンツのキャッシュ保持が可能となりました。  
ープロキシ > 詳細設定 画面
- ・NTLMの際に、ユーザ名またはドメイン名に指定がない場合の扱いを選択可能にしました。  
ープロキシ > NTLM設定 画面
- ・パケットキャプチャをManagementConsole上から取得できる機能を追加しました。  
ーシステム > パケットキャプチャ 画面

---

**N8100-1703** 用アップデートモジュール (offlineupdates-9.0-1.i386.rpm) における、以下の追加機能については、それぞれ Management Console 該当画面の「ヘルプ」をご覧ください。

※設定を行わなかった場合は、特に説明がなければ従来と同じ動作を行いません。

※本バージョン以前に個別提供で追加した機能強化等 (RPQ 対応を含む) も全て含まれていません。

**[offlineupdates-9.0-1 で追加された機能]**

- ・ NTLMで取得したユーザ情報キャッシュの使用範囲及び条件を詳細に設定できるようにしました。  
ー プロキシ > NTLM設定 画面
- ・ NTLMスキップ設定に、同時に認証をスキップできる設定を追加しました。  
ー プロキシ > 認証設定 画面